

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2692800069		
法人名	社会福祉法人 城陽福祉会		
事業所名	グループホーム ひだまり鍛冶塚		
所在地	京都府城陽市平川鍛冶塚64番地		
自己評価作成日	平成24年2月27日	評価結果市町村受理日	平成24年6月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2692800069&SCD=320&PCD=26
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	京都府京都市下京区木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1 「ひと・まち交流館京都」		
訪問調査日	平成24年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員はもちろん、入居者の「笑顔」も絶えない住まいです。またそのために法人全体で接遇・環境を中心に力を入れて取り組んでいるので、入居者への関わり方、環境、設えなどに反映されています。ひだまり鍛冶塚は菜園・庭園を設けているので季節の花・野菜作り・日向ぼっこなどが自由にでき、一人ひとりが思い思いに生活できるように個々を尊重して過ごして頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念を「ありがとうの気持ち」として、感謝の気持ちで職員が介護に関わる事を大切にしている。認知症の進行緩和を目的に「皆と一緒にする」を合言葉に全員がそれぞれに、料理をしたり、菜園活動や掃除そして洗濯する等で、力を活かし助け合って共同生活を営むアットホームな事業所になっている。また毎朝介護職と一緒にバイタルを測りそれを利用者自身が記録をする等前向きに取り組む姿勢が窺われる。開設1年4カ月であるが、地域との双方向の関係も出来てきて、ボランティアの応援もたくさんある。家族と共にするケアを大切に、随時家族に声を掛け、気易いようにしたり、家族と地域との交流も念頭に置きながら行事に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームにあった理念を作りそれを皆で共有しているが、具体的に取り入れ実践に取り組めていないので次年度の計画に取り入れる	事業所独自の理念の必要性を感じて職員で話し合い「ありがとうの気持ち」と作成した。思いやる気持ちや言葉遣いそしてやさしい気持ちで利用者にかかる言葉や態度に気をつけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加し、避難訓練・餅つき大会等自然に交流出来ている。これからも参加をしていきたい	自治会に加入して、回覧版で、町内の行事を知り、どんど焼きや古紙回収・地域防災訓練等に利用者と共に参加している。近隣の方とは散歩や買い物に行った時等、声かけをしたり、庭の花やおやつを持ってきて貰う関係にある。事業所でする、芋掘りやハーブの演奏会・餅つき大会のお知らせを配布し地域の方の参加がある。これからますます地域に開かれた事業所になる事を課題としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	集会所で行われた、ミニ講習会などにGHの説明や認知症の説明をさせていただいた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の推進会議にて、ホームでの取り組み等報告。その結果を職員にも回覧、職員会議で具体化して実施している	会議は自治会長・高齢者クラブ・民生委員・城陽市担当課・地域包括支援センター・家族・利用者で構成し開催している。活動状況を報告し活発な意見交換があり、高齢者クラブの会長から「地域の敬老会の場で事業所の説明をして欲しい」と希望があり実施した。	運営推進会議で話し合われた内容を地域や家族に知って貰う為に、閲覧できるようにしていく事が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢介護課の担当者が、推進会議に出席して頂いているので、その時に相談指導を受けている	常に電話や訪問で双方に相談できる関係にある。市主催の「地域密着型サービス事業所連絡会議」が、年5回あり出席して意見交換をする等、顔馴染みの関係が持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	門扉の施錠は、防犯上の事や家族様からの要望もあり、必要時以外は施錠していますがお天気の良い日などは時間を決めて開門している	事業所の研修で「身体拘束をしないケア」について学んでいる。利用者個々のペースに合わせる事を大切に、「ちょっと待って下さいね」等言葉の拘束にも気をつけている。日中であっても門扉の施錠をしている時間帯がある。	門扉の施錠は身体拘束に繋がる大事な事なのでリスク回避を考えながら、施錠をしないで暮らせる工夫をすることを勧めする。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の会議や職員会議での研修で周知している。言葉遣いなどにも注意を払いたい		

京都府 グループホーム ひだまり鍛冶塚

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体の会議や職員会議での研修で周知しているが知識不足と思われるので研修等を行っていく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面をもつての説明をさせて頂き、理解・納得を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議に参加して頂いている。意見箱の設置もしている 家族が面会等で来られた場合に意見を聞いている	面会時や電話・アンケートで意見を聴いている。家族から「地域にもっと出て行って、地域の人たちとの交流をさせて欲しい」と意見が出て、職員で話し合い計画を進めている。	地域の人と家族の交流が深まることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の事業所内の会議等で意見や提案を聞き反映させている	毎月行うミーティングの前にアンケートをとって意見を聞いたり、全体の職員会議でも意見は聞いている。職員からは「家族との行事を定期的にしたいたい。」と意見が出て、家族に声を掛けて月1回は一緒に出来る行事をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状況を把握し、問題点を考え解決するよう努力してもらっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修や会議での研修、必要に応じて外部の研修もしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所の会議等に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望等お聞きしながら、プランに反映させながら、安心して頂けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る限り、困りごとや要望などを伺い、プランに反映させながら、関係作りに心掛けています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時、一番に必要としている支援を、職員同士で共有し実行している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活し、人生の先輩として教えて頂くこともあり、勉強になっている 料理なども一緒に作るようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に積極的に話をしたり、季節の模様替え等お願いし、お互いに支え合っています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や、外出などその方にあった関係維持の支援を続けるように努めている	近隣の馴染みの方が来られた時は、快く受け入れ居心地良い環境を作るように努めている。同法人の事業所が集まる月1回のお茶会に参加し、友人に合うのを楽しみにしている。馴染みの美容院や電気屋・イズミヤに行ったり、図書館に良く行っていた方はCDを借りに行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が中に入り、良い関係になれるように努めている 百人一首や坊主めぐりなどが参加できる事をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で出られた方や、事情があって出られた方等、いつまでも必要な人として、かわりを継続、時には電話がかかったり、遊びに來られたりして相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、本人の希望に添えるよう努めている	契約時に家族・本人の意向や生活歴を聞いてアセスメントシートに記入している。ある利用者の「オルガンを弾きたい」という意向から、家族にオルガンを持ってきて貰い、オルガンを弾くことをケアの中に取り入れている。伝えるのが困難な方は態度や仕草・表情そして家族から聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	話しをする事で、今迄の暮らし方、生活環境、が把握でき、アセスメントも参考にさせていただいている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々職員同士で様子観察し、好きな事、得意分野を見極め日々の生活に行かせるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス、事前資料を個々の職員が作成、月一回の職員会議にて話し合い決定統一した関わりを持つようにしている	家族や本人から聞いた生活歴や意向を基に医療情報も含めて全職員で介護計画を作成しているが、家族は会議には参加をしていない。モニタリングは家族の意見も聞いて毎月行い、全職員でカンファレンスを行っている。変化のある時は見直し、定期的には6カ月毎で介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンやノートに細かく記録し、職員同士で意見を共有、その都度変更なども話し合っ実践や介護計画に繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り、本人の希望に添えるように対応している。担当職員としてできると思うことは、チャレンジしている		

京都府 グループホーム ひだまり鍛冶塚

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方に来ていただいたり、自治会の行事にも参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院もあるが、ほとんどの方はかかりつけの医院で受診されている	利用者はそれぞれのかかりつけ医に受診して家族が同行している。家族の都合が悪い時や容態の変化があった時は同行している。受診時は家族に口頭で情報を伝えている。協力病院は昼間の緊急時は可能だが、夜間対応は出来ないため夜間も対応して貰える協力医療機関を探している。	夜間緊急時に対応できる医療機関との連携を早急にされる事を望む。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	該当せず 訪問看護等の利用者はなし		
32	○	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ドクターや、ナースに確認、常に連絡を取り状況の把握、家族様との連絡を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	該当者なし 事業所内でできることは行っていきたい	重度化や終末期に向けた方針の明文化は出来ていない。家族には契約時に事業所で出来る範囲を説明して家族の思いは聞いているが、事業所として方針を出していく事を今後の課題としている。	課題としても挙げているが、重度化に向けた方針について職員で話し合い事業所の方向性を明文化し、チームで取り組んでいく事を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	城陽福祉会の法人全体として、救急の研修など行っている。非常時災害については3月に行う予定です		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	これから実施の予定	昼夜想定訓練を年2回実施し、1回は消防署の立ち合いの下行っている。訓練実施のお知らせを近隣に配布しているが近隣の協力は得られていない。地域の防災訓練に利用者と共に参加をしている。備蓄の確保は今後の課題としている。	災害時に近隣の協力を得られるような働きかけと、備蓄を備える事をお勧めする。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇は職員が自己チェックを行い、接遇委員、管理者が自己チェックしている またできる限り同性介助をしながら常にベストの状態に近づけるように努力している	接遇委員会が中心となり研修や自己チェックを行い、職員の接遇意識について資質向上に努めている。利用者に関わる時は、丁寧な言葉を使っている。トイレや入浴の誘導は大きい声で言わないで小声で寄り添って介助するように気をつけている。気になる言動の時は職員間でお互いに注意を合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中でどのような希望があるのかななどを聴き、声掛けなども出来る限り選んでいただけるような対応をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の時間の制限はあるもののゆっくり関わることでその人の時間を大切にしているがもっと1人ひとりの事を知る必要がある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身嗜みは表情等も変えてしまうことがあるほど大切なものと職員が意識している 朝の着替え時に服を選んでいただき、洗面等も行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物から準備、片付けまで一緒にできている	法人の栄養士が立てた献立で、利用者と共に買い物に行き・調理から片付けまでしている。利用者の好みに応じた給食になるように、給食会議で意見を出している。職員も利用者と一緒に食事をし和やかな雰囲気である。月1回ファミリーレストランや回転寿司に行く外食を楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人内の特別養護老人ホームの献立を参考にして栄養管理を行い、今までの家庭での食事量を参考にしている。 記録等を通して食事・水分の量を把握して支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前に口腔ケアを行っている 毎食後のには行えていないが、食後に歯磨きの声掛けを行っている 昼寝等をされる方については口腔ケアを行っている		

京都府 グループホーム ひだまり鍛冶塚

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄をできる限り支援している 失敗があれば排泄の間隔などを見直しているがデーターをしっかり取っての実施はできていない	排泄記録をつけて、パターンを掴みトイレで排泄している。誘導をしている人の中にパッドを使わずに布パンツで過ごせているが、ほぼ汚さずに成功している。パターンを掴もうとするが、つかみきれていない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り薬に頼らず、牛乳・ヨーグルト等の摂取や日頃の運動を多くするよう散歩などを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	楽しみにされているので女性先の日など優先順位を設けている	1対1介助でゆっくりと入っている。利用者同士2人で入りたい人もいるので支援をしている。利用者の好みにより、お湯の中に季節の花を入れたりピンクの入浴剤・柚子湯等で入浴に変化を持たせている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後に休んで頂く方など、一人ひとりの状況に添って支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解して支援している 薬の変更等があれば症状の確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で役割が分担され一人ひとり得意なことを中心に行っている(料理・買い物・畑仕事など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物などその日の希望で外出している 外出は家族様の協力を得てイルミネーションに行ったりしている	周辺散歩を日課として長距離組・短距離組を決めて本人の希望や体調に合わせて行っている。買い物はイズミヤに歩いて行き、車ではコメリまで行っている。ドライブで、青谷・天ヶ瀬ダムなどに行き、家族も一緒に桜の花見とイルミネーションを見に行っている。庭に出て、草ぬきや畑仕事もボランティアと一緒に楽しんでいる。	

京都府 グループホーム ひだまり鍛冶塚

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかい程度を自分で管理されている 買い物に行かれるとご自分で支払い等を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はがきを希望されれば購入したり、家族にはいつでも連絡できるように確認している 携帯電話を持っておられ方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあったもの、一人ひとりの要望を聴きながらディスプレイを心がけて設えをしている	テレビは好きな人や聞こえにくい人が、大きい音で掛ける事があるのでテレビのコーナーを設けて大きい音にならないようにすると共に掃除機の音にも気をつけている。台所の流しや調理台は利用者に使い易い高さで、職員と一緒に調理や片づけをする等一人ひとりが力を発揮出来るようにしている。加湿器や空調で湿度や温度の調整もし換気にも配慮している。リビングから下りられる花壇には長椅子が置かれ、季節の花々にふれて寛げる場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関横、リビングが2箇所に分かれており、気分によっていろいろな空間で過ごせている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用されていた馴染みの物を持ってきて頂いている	居室はクローゼット・洗面台・レースのカーテンは備え付けられ、カーテンやベッドは利用者の好みで設えている。、馴染みの物は大切な仏壇や位牌・扇風機・机・いす・テレビ・カレンダー・家族の写真・格言を書いた書などを壁に貼り、鉢植えの花や水槽の小さな魚を居室で世話をする等、自宅と同じように居心地良く過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下幅、手すり、玄関にある椅子などできる限りご自分で生活できる環境である		